

「教育・発達」心理資格連絡協議会主催シンポジウム

テーマ:「公認心理師における『教育・発達』的観点の意義と可能性

—その1:教育分野における公認心理師の職域開発と養成—

●日時:2020年3月28日(土) 10時—12時30分(受付は9時30分より)

●会場:東京成徳大学東京キャンパス(十条)4201教室

〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13

*アクセス:JR埼京線「十条駅」南口下車徒歩5分/JR京浜東北線「東十条駅」南口下車徒歩10分

●参加費:無料

●予約:不要

●主催:「教育・発達」心理資格連絡協議会

●後援(予定):日本公認心理師協会(依頼予定)、公認心理師の会(依頼予定)、日本スクールカウンセリング推進協議会(依頼予定)

●問い合わせ先:「教育・発達」心理資格連絡協議会事務局(特別支援教育士資格認定協会:office@sens.or.jp)

★学校心理士、臨床発達心理士、特別支援教育士の資格更新ポイント付与予定(申請中)

<趣旨>

公認心理師は、保健医療、教育、福祉、産業、司法の各分野の汎用的な国家資格として設立され、2018-2019年度には第1回、第2回国家試験が実施され、約36000名の公認心理師が誕生した。

「教育・発達」心理資格連絡協議会は、日本心理学諸学会連合と連携し、国会での院内集会の開催、国会議員への陳情、10万人署名などへの協力を通して、心理学の研究成果と心理支援の蓄積で得られた知見に裏付けられた包括的アセスメントとそれに基づく支援方法を有する「公認心理師」の設立に貢献してきた。

現任者講習会テキストや試験出題基準で提示され強調されている「生物・心理・社会モデル」には、以上の理念が反映されているといえるが、今後、アセスメントや支援方法においては、「教育・発達の観点」がより適切に反映されるように働きかけてゆく必要がある。

公認心理師の5つの分野のひとつである「教育分野」における具体的な職域として、現在は「スクールカウンセラー」や「通級指導教室の巡回相談員(東京都)」等があるが、今後、より広い「スクールサイコロジスト」的な役割や、特別支援学校や特別支援学級などでの「個別の支援計画」作成や支援、予防的心理教育などでも公認心理師の職域の開発・拡大が期待される場所である。また、その養成が大学・大学院においてどのようになされる必要があるかも大きな課題である。

本シンポジウムでは、生まれたばかりの公認心理師の今後の成長を願い、保健医療、教育、

福祉、産業、司法領域において、「教育・発達の観点」がどのような貢献をし、従来の心理支援の枠組みを超えた、新たな「教育・発達の観点」による支援方法の可能性、また「教育・発達の観点」観点に基づいた、大学での公認心理師の養成について共に考えていきたい。

その第1回目として、今回のシンポジウムでは、「教育分野」における公認心理師の職域開発と養成について『教育・発達』的観点による様々な現場での実践を通して、共に考える機会としたい。

<プログラム予定>

●開会あいさつ

花熊 暁（日本公認心理師協会理事、(財)特別支援教育士資格認定協会理事長）（5分）

●話題提供

1. スクールカウンセラーとしての公認心理師の専門性と養成・・・石川悦子（日本公認心理師協会理事、こども教育宝仙大学）（25分）

2. 通級指導教室の巡回相談員としての公認心理師の専門性と養成：東京都の実績から・・・黒田美保（日本公認心理師協会常務理事、日本臨床発達心理士会会長）（25分）

3. 教育相談コーディネーターとしての公認心理師の活用・・・大矢正則（東星学園校長）（25分）

4. 心理予防教育における公認心理師の役割・・・川野健治（立命館大学）（25分）

●指定討論

石隈利紀（東京成徳大学、日本公認心理師協会副会長、「教育・発達」心理資格連絡協議会代表）（25分）

●全体討論（20分）

<「教育・発達」心理資格連絡協議会参加団体>

日本応用教育心理学会、一般社団法人日本発達心理学会、一般社団法人日本教育心理学会、日本感情心理学会、日本学校心理学会、一般社団法人日本特殊教育学会、日本コミュニケーション障害学会、一般社団法人学校心理士認定運営機構、日本学校心理士会、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構、日本臨床発達心理士会、一般社団法人日本LD学会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会、日本学校カウンセリング学会、日本生徒指導学会、日本質的心理学会、日本K-ABCアセスメント学会